

2020年3月期1Q 決算説明会 Q&A サマリ

2019年8月7日

【FY19 1Q 実績】

Q 制御の受注に関する業種別・地域別の動向について、地政学的リスクも含めて伺いたい。

A 景気減速が懸念される中で、日本・中東の受注が堅調。アジアは前年同期比ではマイナスではあるものの、大きな状況の変化は見受けられない。業種別ではダウンストリームが好調に推移したほか、日本では化学も堅調。加えて、中東では、従来からの地政学的リスクはあるものの、OtoC（クルドオイルからケミカルへ）で投資の動きがあることから、今後、ダウンストリームと併せてアップストリームも伸びを期待している。

Q LNGの制御受注に占める割合や投資動向について伺いたい。

A LNGとしての比率を示すことは難しいところがあるが、アップストリームの分野の多くが LNGに関わっていることから、アップストリームの割合の多くが何等かの形で LNGに関連すると捉えて頂ければと思う。投資の動向などに大きな変化はなく、LNGを含む天然ガスへの投資に引き続き期待している。

Q 米中貿易摩擦などの外部環境の悪化による影響について確認したい。

A 米中貿易摩擦などの影響について、現時点で大きな変化は見受けられないが、外部環境は不透明感が増しているため、引き続き注視していく。

Q 粗利の状況について伺いたい。

A 前年同期比では粗利率が増加しているものの、3か月間に売り上がるプロジェクトの状況にもよるため、1Qの3か月間で判断するのは難しい。年間を通して捉えて頂きたい。

Q 1Qの販管費14億円の位置づけについて確認したい。

A 販管費の年間見通し41億円に対する1Qの14億円は、やや少な目でスタートした印象がある。

Q ソフトエラー対策強化引当金繰入額としての30億円の特損について伺いたい。

A 中性子線量の増加に伴い、これに起因すると思われるソフトエラーの発生頻度が若干増加している。当社製品の一部においても、当該ソフトエラーの発生と思われる事象が見受けられた。そこで、当社製品の信頼性を高く評価して頂いているお客様に対して、対策およびサポートをこれまで以上に強化するために、対象となる製品をお使いのお客様に個別に正確な情報の提供と対策強化製品への交換をご提案することを決め、これを進めるにあたって今後発生が見込まれる費用として、約30億円の特別損失を計上した。

Q 為替の影響について、感応度も含めて伺いたい。

A 為替感応度については大きな変化はないと認識している。為替の変動については、新興国通貨を中心に円高の割合が高まっている印象がある。引き続き為替の変動が当社の業績に与える影響に注視していく。

(注) 本資料で提供する情報のうち業績見通し及び事業計画等に関するものは、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいています。従って、実際の業績は、様々な要因により、これらの見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。なお、内容につきましては、理解し易いように部分的に加筆・修正しています。